

平成 25 年 4 月 12 日（金）

特別経費プロジェクト拠点代表 征矢英昭 教授

所属：人間総合科学研究科

氏名：ユク ジャンス

第 27 回 BAMIS セミナー報告書

I. セミナー概要

本セミナーは「最先端の神経精神薬理学に学ぶ次世代スポーツ科学の課題」をテーマに開催された。征矢英昭教授から鍋島俊隆教授の紹介と招聘の意義が紹介されたのち、鍋島俊隆教授が「研究方法論 研究をどう進めるのか」の演題で講演した。鍋島教授が長きにわたる研究生活で携わった仕事を紹介しつつ、研究テーマの選び方から論文の書き方、研究費獲得に至るまで、鍋島流研究方法論が熱く語られた。随所に若手研究者への熱いメッセージが散りばめられており、将来、体育スポーツ科学分野での研究者を志す参加者にとって大変刺激的な内容であり、参加者は高い関心を持って傾聴していた。質疑応答では、大学院生や特別研究員から多くの質問がなされ、鍋島教授ご自身のエピソードも交えた貴重なアドバイスと激励の言葉が送られた。

II. 開催概要

主 催：文部科学省特別経費プロジェクト

「たくましい心を育むスポーツ科学イノベーション」

筑波大学大学院人間総合科学研究 体育科学専攻・コーチング学
専攻・スポーツ医学専攻 システム情報工学研究科 知能機能シ
ステム専攻

日 時：平成 25 年 4 月 12 日（金） 9:00～11:30

場 所：筑波大学体芸棟 5C606 会議室

講 師：鍋島俊隆 特任教授

参加人数：38 名

Ⅲ. 講演概要

演題：「研究方法論 研究をどう進めるのか」

○講演内容

本講演では鍋島教授のこれまでの膨大な研究成果を基盤として、研究テーマの選択から優れた研究論文の完成、研究者としての心得等の内容について講演がなされた。

前半は、研究テーマの選択に際して、1) DNA マイクロアレイ法を用いた薬物依存の分子機構の探索に関する研究を例に既存の報告の矛盾点に着目し他人と違う仮説を立てることの重要性について、2) PCP 連続投与による統合失調症モデルマウスでの網羅的な行動解析をおこなった研究や、精神疾患多発のスコットランドの家系から統合失調症の変異遺伝子を同定した研究を例に常に臨床に立脚することの重要性について、3) Arvid Carlsson 博士や利根川進博士のノーベル賞研究を例に異分野の融合の重要性についてそれぞれ概説した。

後半は、テーマの選択後、仮説を論理的に検証していく研究方法について、研究費獲得のコツや研究者としての心得なども交えて実際のケースを紹介しながら説明した。また、論文の書き方について、目的、方法、結果、考察、文献とそれぞれの項目ごとに分けて具体的かつ分かりやすく説明した。さらに、論文や学会発表を批判的に読む、聞くことの重要性が繰り返し強調された。

質疑応答では、研究テーマを選び方や学会等で質問するためのコツ、留学で得られること等について大学院生や特別研究員から多数質問が寄せられ、ご自身のエピソードを交えながらアドバイスと激励の言葉が送られた。